

TACの主な取り組み

担い手が地域農業で輝くために、なにができるのか——
TACの活動は画一的なものではなく、それぞれの地域や経営の状況に応じて多岐にわたります。
『地上』誌面でもこれまで、全国で活躍するTACの姿が数多く紹介されました。

農業生産振興

地域農業の中核たる担い手のみなさんの課題解決を通じて
農業経営を支え、地域農業の維持や活性化に貢献します。



担い手の経営改善に資する 資材・技術の提案

担い手の意見・要望に応じてそれぞれの資材や技術を、担
い手ごとに最適な提案をすることで、さらなる所得の向上・
安定につなげています。



労働力支援

担い手の多くが「労働力」を大きな経営課題として挙げるな
か、適切かつ持続的な農業経営が可能になるよう、人材の
確保や適正な労務管理についてサポートを行っています。



農産物の販路拡大

TACが産地の魅力や担い手の栽培にかける思いを直接バ
イヤーにつなげる機会として商談会などに出席しています。



事業承継支援

親世代と子世代が農業に関しておたがいの気持ちや考えを
伝え合うことがたいせつであり、そのきっかけづくりとして事
業承継ブックを活用した取り組みを進めています。



農業経営支援

農業経営分析に基づく経営改善提案や法人化支援など、
担い手の経営に資する取り組みを行っています。



これからも、TACは地域に寄り添い、「出向く活動」を続けます



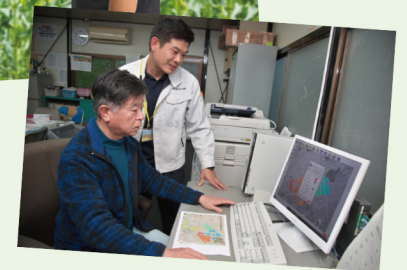
今までもこれからも 農業経営者を支えるTAC

農業の担い手に寄りそってその声を聞き、地域農業を盛り上げるために日々奮闘するJA担当者：愛称「TAC」は、
2022年度に発足15周年を迎えます。全国各地で地域に根ざした活動続けるTACの役割や意義を伝えます。

TACの誕生と由来

「Team for
Agricultural Coordination」

2008年4月、一般公募により「地域農業の
担い手に向くJA担当者」の愛称を「TAC
(タック)」と決定しました。「単協・連合会が
一体(チーム)となって地域農業をコーディ
ネートする」という意味を持つ「Team for
Agricultural Coordination」の頭文字を
とったもので、発足から15年、地域に根ざ
した「出向く活動」を全力で続けています。



TACのロゴマークは、地域農
業の担い手とTACが対話・相
談しているシーンと、それを起点
として生まれる課題解決やヒラ
メキを"i!"で表現しています

TACの役割

5年後も10年後も地域農業を担っていく農業経営者(担い手)に日々出向き、意見や
要望を聞きながら、農業経営に役立つ情報の提供もしています。担い手から聞き取っ
た内容は、JA・連合会で共有され、JAグループの事業に反映することで、持続可能な
地域農業の発展につなげています。

TAC15年の歩み

発足から現在に至るまで、TACが担い手から聞いた声に応え、地域農業を盛り上げるため、
さまざまな取り組みに挑戦してきました。その歩みを改めて振り返ります。

2008年4月	担い手に向くJA担当者の全国統一愛称を『TAC』に決定
2008年5月	「TACシステム」運用開始
2008年11月	「TACパワーアップ大会」開始 ※以降毎年開催(写真①)
2009年2月	JAグループ国産農畜産物商談会「TACの店」出展開始
2009年11月	先進JAの成功のポイントに学び「TAC設置・活動基準」を策定 (活動の標準化)
2010年9月	TACの要望にたいする全国本部対応策の一環として、みのりみのる プロジェクト旗艦店(銀座三越 みのりカフェ&みのる食堂)開業 (写真②) ※その後20店舗に
2016年4月	農家の手取り最大化の取り組み開始
2017年1月	「事業承継ブック～親子間の話し合いのきっかけに～」発行



②

①